

神奈川県立図書館




女性関連資料PR 講座

なぜ、女は「わたし」で男は「ぼく」なのか？
～男女別自称詞について考えてみよう～

参考文献リスト リンク先から所蔵図書館や本の購入サイトを確認できます。

各資料のタイトルは、[国立国会図書館サーチ](#)へリンクしています。

 は、[神奈川県立の図書館](#)で所蔵しています。図書の場合、アイコンのリンク先から所蔵情報の確認や貸出予約ができます。

中村桃子氏講義の参考図書

-  巖本義治「女性の言葉つき」『[女学雑誌](#)』(221) p594 女学雑誌社 (1890) 
-  上田万年『[明治文學全集 4 4](#)』 筑摩書房 (1968) 
-  大槻文彦「[日本方言の分布区域](#)」『[風俗画報](#)』(318) p12-17 東陽堂 (1905) 
-  岡田八千代「[此頃の言葉](#)」『[言語生活](#)』(64) p44 筑摩書房 (1957) 
-  吉田澄夫・井之口有一編『[明治以降国語問題論集](#)』 風間書房 (1964)
-  小森陽一ほか編『[メディア・表象・イデオロギー](#)』 小沢書店 (1997) 
-  金井保三『[日本俗語文典](#)』 宝永館 (1901)
-  上川あや『[変えてゆく勇気「性同一性障害」の私から](#)』 岩波書店 (2007) 
-  カメロン、デボラ&ドン・クーリック『[ことばとセクシュアリティ](#)』 三元社 (2009) 
-  唐澤富太郎『[日本の女子学生](#)』 講談社 (1958)
-  木枝増一『[言葉遣の作法](#)』 大阪堂書店 (1943)
-  菊澤季生『[国語と国民性](#)』 修文館 (1940)
-  小松寿雄「『[一読三歎 当世書生氣質](#)』の江戸語的特色」『[埼玉大学紀要](#)』(9) p17-28 埼玉大学教養学部 (1974)

- 遠藤織枝編『[女とことば](#)』 明石書店（2001） 
- 海後宗臣編『[日本教科書大系近代編第五巻国語（二）](#)』 講談社（1964） 
- 小森茂ほか著『[新編新しい国語1 1巻](#)』 東京書籍（2015）
- 橋本治『[花咲く乙女たちのキンピラゴボウ](#)』 河出書房新社（1984）
- 平野広朗『[アンチ・ヘテロセクシズム](#)』 パンドラ（1994）
- 藤本由香里『[私の居場所はどこにあるの？](#)』 学陽書房（1998） 
- 保科孝一『[国語学精義](#)』 同文館（1910）
- 保科孝一『[國語と日本精神](#)』 実業之日本社（1936）
- 保科孝一『[大東亜共栄圏と国語政策](#)』 統正社（1942）
- 本田透『[萌える男](#)』 筑摩書房（2005）
- 文部省内教育史編纂会編『[明治以降教育制度発達史 第一巻](#)』 龍吟社（1938） 
- 吉岡郷甫『[日本語文法研究書大成 文語口語対照語法](#)』 勉誠出版（2001）

中村桃子氏講義の参考図書（外国語文献）


- Cameron, Deborah and Don Kulick [Language and sexuality](#)
Cambridge University Press（2003）
- Eckert, Penelope “Demystifying sexuality and desire” [Language and sexuality
: contesting meaning in theory and practice](#) p99-110
edited by Kathryn Campbell-Kibler...[et al.] CSLI Publications（2002）
- Miyazaki, Ayumi “Relational shift: Japanese girls’ nontraditional first-person
pronouns” [Gendered practices in language](#) p355-374 edited by Sarah Benor...[et al.]
CSLI Publications（2002）
- Nakamura, Momoko “Masculinity and national language” [Gender and language \(2-1\)](#)
p25-50 Equinox（2008）
- Nakamura, Momoko [Gender, Language and ideology](#)
John Benjamins Publishing Company（2014）


神奈川県立図書館所蔵の関連資料 講師著作


- 『[「自分らしさ」と日本語](#)』中村桃子 筑摩書房（2021） 
- 『[「女ことば」はつくられる](#)』中村桃子 ひつじ書房（2007） 
- 『[女ことばと日本語](#)』中村桃子 岩波書店（2012） 
- 『[新敬語「マジヤバイっす」](#)』中村桃子 白澤社（2020） 
- 『[翻訳がつくる日本語](#)』中村桃子 白澤社（2013） 
- 『[ジェンダーで学ぶ言語学](#)』中村桃子編 世界思想社（2010） 
- 『[新編日本のフェミニズム 7](#)』天野正子ほか編 岩波書店（2009） 
- 『[〈性〉と日本語](#)』中村桃子 日本放送出版協会（2007） 
- 『[日本語とジェンダー](#)』日本語ジェンダー学会編 ひつじ書房（2006） 
- 『[ことばとフェミニズム](#)』中村桃子 勁草書房（2001） 
- 『[ことばとジェンダー](#)』中村桃子 勁草書房（2001） 

神奈川県立図書館所蔵の関連資料 ことばについて


- 『[女のことば男のことば](#)』小林祥次郎 勉誠出版（2018） 
- 『[日本語におけるジェンダー表現](#)』陳一吟 花書院（2012） 
- 『[世界をつなぐことば ことばとジェンダー](#)』遠藤織枝ほか編著 三元社（2010） 
- 『[「女ことば」は女が使うのかしら？](#)』任利 ひつじ書房（2009） 
- 『[女ことばはどこへ消えたか？](#)』小林千草 光文社（2007） 
- 『[日本語の女ことば](#)』高橋巖 高文堂出版社（2001） 


『「ことば」に見る女性』東京女性財団編著 東京女性財団（1998） 


『女のことばの文化史』遠藤織枝 学陽書房（1997） 

『女とことば今昔』杉本つとむ 雄山閣出版（1997） 

神奈川県立図書館所蔵の関連資料 「らしさ」について

『「男らしさ」はつらいよ』ロバート・ウェブ 双葉社（2021） 

『フェミニズムはもういない、と彼女は言うけれど』高橋幸 晃洋書房（2020） 

『逸脱の文化史』小倉孝誠 慶應義塾大学出版会（2019） 

『ジェンダーから見た日本語教科書』水本光美 大学教育出版（2015） 

『摩擦する「母」と「女」の物語』高岡尚子 晃洋書房（2014） 

『女子プロレスラーの身体とジェンダー』合場敬子 明石書店（2013） 

『〈男らしさ〉という病?』熊田一雄 風媒社（2005） 

神奈川県立図書館蔵書検索システムで「女性関連資料」を探す



OPAC画面資料区分の「女性関連」で絞り込みできます。
 その他、「資料紹介」から、新着資料「女性関連資料」で新着本を確認できます。

※各資料について、貸出不可や絶版など入手が難しい場合がございます。予めご了承ください。